

日本福祉心理学会第15回大会は平成29年7月8日(土)・9日(日)の2日間に渡り、北九州市にあります九州女子大学弘明館・耕学館にて開催されました。今大会のテーマは「福祉現場の『実践』と『理論・研究』をつなぐ福祉心理学」といたしました。

実行委員長は、九州女子大学人間科学部人間発達学科、教授の大迫秀樹が務めさせていただきました。大会には全国各地の福祉心理学に携わる大学教員や福祉施設職員等が集い、活発な意見交換がなされております。

第1日目には、日本福祉心理学会理事長の網野武博先生、開催校である九州女子大学副学長の奥田俊博先生、第15回大会実行委員長大迫秀樹の挨拶により、開会行事が執り行われ、予定通り大会が始まりました。なお、開催に先立ち、福祉心理士会が実施されています。

開会に続く記念講演では、鹿児島大学名誉教授・社会福祉法人吾子の里理事長の十島雍蔵先生をお迎えし、「福祉現場の生活臨床に生きる福祉心理学の実践とは—ミクロな目とマクロな心—」という演題にて講演いただきました。「福祉の現場における被支援者とのかかわり一つひとつにしっかりと目を向け、そこで学んだことを積み重ねていくことこそが、福祉心理学における重要かつ最大の学びになる」「支援の専門性とは、一つひとつの支援場面において起こり得る可能性を頭に入れつつ、目の前の場面・状況において最も適切な行動は何かを瞬時に判断できる力である」ということをお教えいただきました。



引き続き開催された本学会研究推進委員会が企画した学会企画シンポジウムでは、「社会的養護における児童養護施設等の小規模化、家庭的養護の流れをめぐる現状と課題、および展望」という演題で、研究推進委員の大迫と福岡県の児童養護施設等の施設長3名による話題提供が行われ、指定討論者の立正大学・片岡玲子教授のコメントのもと、活発な議論が行われました。このシンポジウムでは、児童養護施設等における小規模化、家庭的養護の推進の方向性に伴った取り組みが進行するに従って、施設現場に存在する課題が整理され、その課題解決に向けて福祉心理学がどのような役割を担うべきなのか、ということについての示唆が得られました。



その後は、西南学院大学の野口幸弘教授が企画された「準備委員会企画シンポジウムⅠ：強度行動障がい者への地域支援体制のあり方」が開催され、福岡市近郊における強度行動障がい者に対する通所施設と居宅介護事業を軸としたインフォーマル支援の実践事例が紹介され、それをもとに、応用行動分析の視点から、行動障がい支援の今後の方向性について議論がなされました。



同時に、静岡大学の井出智博准教授・国立武蔵野学院の大原天青氏が企画された「自主シンポジウムⅠ：社会的養護を要する子どもの成長を支える(3)～成長を支えるコラボレーション～」が開催され、社会的養護を要する子どもたちに対するさまざまな領域における実践報告と、施設間の連続性を持った支援の実態についての報告がなされ、心理職と他領域とのコラボレーション、施設間のコラボレーションなどによる効果についての議論がなされました。

この後、場所を変えて、学外にて懇親会が実施され、多数のご参加をいただき、会員、参加者同志の交流と活発な意見交換が実施されました。

第2日目には、特別企画として、社会福祉法人全国社会福祉協議会全国保育士会会長（砂山保育園副園長）の上村初美先生をお迎えし、「専門職としての保育士を考える一心もちの土壌づくりを目指してー」という演題にて、講演いただきました。「子ども・子育て支援新制度」の施行のもと、保育士の確保に関する規制緩和が進むなかで、あらためて、「一人ひとりの子どもが主体的に過ごすことができる保育とは何か」「保育専門職はその保育をどう作り上げていくか」ということについて考えていくべきであることをお話くださいました。



並行して、研究発表が実施され、ポスター発表では34件、口頭発表では4件の発表があり、非常に活発な議論、意見交換が行われました。

また、午後より、会務総会が実施され、議事が滞りなく進行いたしました。またあわせて、貴重なご意見もいただきました。



その後、筑紫女学園大学の西大良准教授が企画された「準備委員会企画シンポジウムⅡ：『チーム学校』における心理職と福祉職の連携のあり方」が開催され、生徒指導・教育相談にかかるチーム体制（チーム学校）の構築・実践に向けて、現在学校現場に参画しているスクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーがどのように連携すべきか、また、チーム学校の構築・実践に福祉心理学がどう貢献できるか、について議論がなされました。

同時に、福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センターの池田顕吾氏が企画された「自主シンポジウムⅡ：軽度知的障がい児の学校教育から成人期への移行支援の現状と課題」が開催され、特別支援学校高等部、高等学園、高等学校を卒業した軽度知的障がい児の社会参加に向けた移行支援における現状と課題について、さまざまな領域における実践報告がなされ、複数の機関の連携や自立支援に向けた仕組みの整備についての提案がなされました。

第2日目の午後の時間まで、非常に多くの参加者にご参加をいただき、活況のうちに大会は終了いたしました。

本大会直前には、九州地方での大雨があり、その影響が心配されましたが、大会にはこれまででも最多の176名の方々（一般参加の特別企画のみに参加された25名を含みますと、計201名）にご参加いただき、大変な盛会となりました。この場をお借りして、ご参加いただいた皆様、ご講演いただいた皆様、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。今後の福祉心理学のさらなる発展を願っております。

日本福祉心理学会第15回大会 大会実行委員長

九州女子大学人間科学部人間発達学科 教授 大迫秀樹